

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和5年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2023-3	衝撃履歴を受ける落石防護土堤の残存耐力評価法と土を利活用した合理的な復旧・補強の技術研究開発	名古屋工業大学 教授 前田 健一	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>堅牢でしなやかな環境調和型の道路斜面防災対策の実現に向けて、低コストで施工性・長期耐久性・復旧性に優れた落石防護土堤に着目し、落石捕捉後の残存耐力評価手法・土を利活用した補強技術・復旧時の技術選定方法に関する技術研究開発を行う。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>道路の斜面防災対策として、一般的に安価で、施工性や復旧性に優れた土構造物を用いる技術開発が着実に進んでおり、既存の落石防護工に対して優位性のある成果が期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・DEM 解析において落石が非円形であることは全体の流動や変形に影響するか否か、一回の吸収エネルギーが大きい砂と繰り返し利用できる土砂の比較優位性、また、DEM 解析でマイクロな変形とマクロな変形の違いがもたらす構造特性への影響を示していただきたい。</li><li>・災害時(地震・豪雨・津波など)を想定した残存耐力の評価方法を標準試験モデル以外でも良いので検討されたい。</li><li>・残存耐力評価法に関する検証の成果が、どのように活用されるか明確にされるとよい。</li><li>・検討結果が「落石対策便覧」などの指針に反映されることを期待する。</li></ul>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第49回新道路技術会議において審議したものである。